●研究室紹介

愛媛大学工学部土木工学科
交通工学研究室

柏谷　増男
溝端　光雄

はじめに

愛媛大学工学部土木工学科は，鉱山学科からの改称により昭和39年に発足した．交通工学講座もこの年に開かれ，当時の教官スタッフは安山信雄教授，五十嵐寧助教授であった．その後昭和44年から昭和48年まで藤目節夫氏（現・法文学部助教授）が助手を努め，その職を昭和53年より溝端光雄が引き継いでいる．一方，関連学科である海洋工学科が昭和49年に発足し，昭和50年に柏谷が海洋開発学講座に着任，昭和60年に土木工学科教授として配置換えされた．五十嵐助教授は停年退官されたが，安山教授は在職中の昭和56年に亡くなられた．当研究室にとって悲しい記憶である．

学生数は土木工学科40名，海洋工学科50名である．計画系の講義科目のほとんどについては両学科を一体とした教育を行っており，当研究室と海洋工学科海洋開発学講座が共同して担当している．

当研究室のスタッフは，柏谷，溝端，および坂本技官の3名であり，学生はM2が1名，4回生が11名である．研究室の雰囲気は比較的自由で講座配属時の希望も多いが，なかには研究室では楽しく遊べると期待して来る学生もあり，卒論に対してやる気を起こさせることが一苦労という場合もある．

研究活動

安山教授の在職中には，安山・柏谷・溝端の3名が共同して地方都市の交通特性に関する実証的研究を行っていたが，その後は柏谷と溝端の学科が別であったこともあり，別々の研究テーマでそれぞれに研究を続けてきた．昨年より，このテーマで共同研究を再開している．

柏谷は，都市活動の分布特性に関する理論的・実証的研究を行っている．動学的住宅立地シミュレーションモデルの研究は，ペンシルベニア大学の藤田教授との共同研究である．一部の学会では成果を発表しているが，論文掲載が遅れており，来年になりそうである．静学的住宅立地モデルについては，ランダムつけ値モデルとの結合による確率的住宅立地配分モデルの研究を手がけている．これに関連してつけ値関数推定の研究も行っており，今後道路整備による沿道地価上昇分析に発展させたい．応用的な都市モデルについては，より長期的なモデルの開発を目指しており，松山都市圏や大阪都市圏を対象とした研究を進めている．

溝端は，高齢者交通の分析と高齢者のための交通施設整備計画の研究，および，地区内経路選択モデルに関する研究を行っている．高齢者に関する具体的研究としては，（イ）高齢者の自動車運転挙動や高齢歩行者の挙動解析，（ロ）加齢と交通事故特性の分析，（ハ）高齢者の自動車運転断念行動分析による自動車保有・利用の将来推計，等を実施している．このうち（イ）については，交通工学的アプローチのほかに運動生理学的観点が必要であり，本学医学部衛生学研究室と共同して研究を進めている．地区内経路選択モデルについては，松山市の道後地区および山越地区を対象としてMNLモデルを用いた実証分析を主に行っている．

学外研究会への参加

地方に在住する研究者にとっての最大の悩みは，研究内容の議論ができる相手が身近にいない点である．このため，われわれ二人も積極的に外部の研究会活動に参加している．柏谷は，10年ほど前より京都および大阪で開かれている日本交通政策研究会の研究会に参加している．都市・交通経済学者と土木計画研究者で構成されているこの会は，試論の発表の場として大変重要である．その他にも土木学会関西支部や日本不動産学会の研究会等でお世話になっている．溝端は，中四国の大学・高専の若手研究者による研究会に8年間参加している．この会は2か月に一度各大学持ち回りで行われており，手弁当をいとわず活発な研究討議が続けられている．たまには，夜行のフェリーの往復もあり，肉体的には疲れるが，精神的な楽しさはそれを上まわる．今後とも多くの方々から研究会参加の呼びかけをいただきたいと念じている．